

一般廃棄物（ごみ） 処理基本計画を策定しました！

減量化・資源化の目標

	現状 (平成 19 年度)	中間目標年次 (平成 28 年度)	計画目標年次 (平成 36 年度)
減量化目標	ごみの排出原単位 (集団回収含まず) 742g / 人・日	705g / 人・日 5 %削減	665g / 人・日 10 %削減
資源化目標	リサイクル率 (集団回収含む) 23.7%	24.5%	26%



ごみの減量化・資源化とともに、適正なごみ処理を行い持続可能な循環型社会の実現をめざして、今年3月に「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」を策定しました。

この計画では減量化・資源化の目標として、1人1日当たりのごみ総排出量（集団回収含まず）を平成19年度の742gから平成36年度までに10%削減の665gとし、リサイクル率（集団回収含む）を23.7%から26%に向上させることをめざしています。

本市では、現在12種類のごみの分別にご協力いただいています。1人当たりのごみ処理経費が県下でも高い傾向にあります。

一部のごみの分別の悪さから、プラスチックごみの資源化が不効率になっている現状があります。また、容器包装類（プラスチックや紙など）のごみ削減のための販売店の取り組みや、消費者との連携の仕組みづくりなども課題になっています。

これらのごみ処理に関する目標の達成や課題を解決するために、計画では「市民参加による環境負荷の低減を図る仕組みの構築と3R（※）の

実践により、持続可能な循環型社会を構築する」という基本理念を掲げています。ついでに、左記の3つの基本方針に基づき、市民一人ひとりの取り組みと市が行う施策の連携により計画の推進を図る予定です。3Rの実践について皆さんのご協力をお願いします。

◆基本理念の実現に向けた方針

- 基本方針 1
市民・事業者・行政の協働による3Rの推進
- 基本方針 2
安定かつ効率的なごみ処理システムの構築
- 基本方針 3
地球温暖化防止に向けたごみ処理施策の実現

毎月第4土曜は 廃食油回収の日

4月24日(出)
午前10時～午後1時

回収会場：市役所別館（旧コミセンやす）横電話ボックス付近
回収物：廃食油、牛乳パック、アルミ缶

※資源ごみや廃食油等の受け取り等にご協力いただける方募集！

問環境課 ☎ 589 - 6431、エコロジーマーケットやすの会・増村 ☎ 586 - 1441

※3Rとは、Reduce（リデュース・ごみを減らす）、Reuse（リユース・再利用）、Recycle（リサイクル・再生利用）の頭文字をとったもので、循環型社会を形成するキーワードです。

1. リデュース

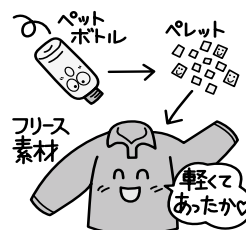


詰め替えができる商品を進んで買う。手作り弁当や水筒を持って出かけるなど



2. リユース

空き瓶を酒屋さんに返す。小さな子どものおもちゃや洋服を友だち同士で譲り合うなど



3. リサイクル

ペットボトルや紙パックはきちんと分別して収集所へ出す。リサイクル商品を進んで買うなど

◆環境課 ☎ 589 - 6431、雑 589 - 5069

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

(67)

歴史民俗博物館

☎587-4410、Fax587-4413

【4月の休館日】

月曜日・火曜日、30日(金)

※4月から火曜日も休館します。(平成22・23年度のみ)

【お知らせ】

4月から市民の博物館入館が無料になりました。どうぞ気軽にお越しください。

◆テーマ展 野洲の古文書(8)「水害を乗り越えて一井口の歴史とくらし」／4月18日(日)まで

井口に伝えられる古文書や絵図から地域の歴史やくらしを紹介します。

◆テーマ展「くらしの今昔」／4月24日(土)～5月30日(日)

昔の写真や民具などからくらしの移り変わりをたどります。

一枚の写真

—40年前の野洲駅周辺—

博物館でよく展示している一枚の興味深い写真があります。昔の野洲駅周辺を1970(昭和45)年6月に撮影したもので、旧野洲町役場に35ミリのカラーフィルムが残っていました。おそらく、駅前にあったビール工場のタンクの上に昇って撮影したと思われる。駅から歩いて行く学生の姿が多く、ある朝の風景をとらえたものでしょう。

鉄道は、1889(明治22)年に「湖東線」として完成し、東京から名古屋

京都、大阪、神戸へ至る全長605kmに及ぶ東海道本線が全線開通しました。そして、野洲駅はその2年後、1891(明治24)年に開業しました。来年、2011年にはちょうど120年を迎えます。

当時の野洲駅は、瓦葺きの平屋の駅舎でした。出入口は南口のみで、入って右側に売店、左側に切符売り場があり、改札を通るとすぐに下り線のホームへ行けました。駅入口の左側にあったまるとい郵便ボックスや、窓のある電話ボックスが往時をしのばせます。

この駅から乗り降りされた人には、とても懐かしい光景でしょう。かつての国鉄駅舎のこの雰囲気、自らの思い出を重ねる人も多いと思います。

駅前も、ロータリーや歩道はまだ整備されていませんでした。中主方面へのバスも南

口から発着していて、バス待合所に「兵主・吉川・守山方面行」の看板があり、駅前通りには大衆食堂などの商店が軒を連ねています。この頃は、駅の北側に建物はなく、中主方面まで見渡すことができたようで、一面に水田が広がっています。駅周辺の工場用地造成や区画整理などの開発は、1969(昭和44)年

から始まり、写真左上には水田の中に広い工場用地が造成されているところがわかります。もっと大きなカラー写真で見ると、書ききれないほどさまざまな発見がありそうです。

現在の野洲駅は、1972(昭和47)年12月に完成し、改札を陸橋の上に設けた橋上駅になりました。この時に北口が開設され、ロータリーも整備されました。また、これに先立って国鉄野洲電車基地が1970(昭和45)年にできています。京都や大阪への利便性が増し、新しい住宅や団地、工場が造られ、人口も増えてまちが大きく発展していった頃でした。写真は古き日々の姿を記録しながらも、新しい時代の幕開けを物語っています。

このように、ちょっと昔のこととはいえ、40年間の変化はめまぐるしいものです。当時を知る人も知らない人も、くらしのなかの風景の移り変わりを、時には立ちどまって感じていただければと思います。

(歴史民俗博物館学芸員 行 俊勉)

野洲駅周辺(1970年6月撮影)

